

新年早々能登半島を襲った大規模地震については、本紙1月10日号で速報したが、その後、次第に詳しい情報が伝えられ、当初考えられていたよりずっと被害が大きいことがわかって来た。地形や季節のせいもあって、復旧・復興も思ったようには進んでいないようだ。この地震で亡くなった方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方が少しでも早く、平穏な日常を取り戻されることを祈念している。この地震が提起した問題は多岐にわたるが、本稿では、大規模火災について考えてみたい。

能登半島地震における火災

消防庁災害対策本部の発表では、能登半島地震に起因して、石川県で11件、富山県で5件、新潟県で1件、合計17件の火災が発生している。京都大学防災研究所西野先生の速報（1月24日）によると、この17件のうち、約5haが燃えた輪島市河合町（朝市通

り）の火災のほか、珠洲市宝立町（焼失区域面積約0・15ha）と能登町白丸（焼失区域面積約0・22ha）の火災が市街地延焼火災とされている。珠洲市と能登町の火災は津波火災の可能性が非常に高い。津波火災というのは、津波で破壊された家屋や家財が津波に乗って陸域に運ばれ、津波が引く時に取り残された大量のデブリが何らかの火源によって燃え始めることよって起こる火災である。デブリがたまり易い山裾や大きな建物の周囲で発生することが多いが、市街地で発生することもあり、消防隊が近づけないために大規模な延焼火災になる。東日本大震災では、岩手県山田町の火災を初め多数の大規模な津波火災が発生し、筆者も調査に加わった。

建築研究所の速報（1月19日）によると、焼失区域の面積は約5ha、焼失棟数約3百戸と推定されており、消防庁の市街地大火の定義（焼損床面積3万3千㎡以上）に該当する可能性もある。火災は、地震後しばらく経ってから、救助活動

能登半島地震における大規模火災を考える

なごとされている。このうち、①は阪神淡路大震災や東日本大震災の時に大きな問題となった。地震の際に消火栓が使えなくなる可能性があることは、関東大震災で痛目目であった関東地方では常識だったが、全国的には必ずしも常識ではないということがわかったため、東日本大震災後に消防庁の「消防水利の基準」が改正された時、「消防水利は、消火栓のみに偏することのないよう」に考慮しなければならぬ。という条項が追加されている。

②は「なるほどそんなことも起こるのか」と改めて気づかされたことではあるが、考えて見れば起こりうることである。今後は防火水槽や取水口の設置位置を倒壊家屋の下敷きにならない位置に設置するように配慮することか、複数の取水口をもった防火水槽を普及することか、そんな対策が必要になって来そうである。

津波警報発令中の消防活動

朝市通りの火災における消防隊や消防団の活動

あの時、大津波警報が

津波で破壊された家屋や家財が津波に乗って陸域に運ばれ、津波が引く時に取り残された大量のデブリが何らかの火源によって燃え始めることよって起こる火災である。デブリがたまり易い山裾や大きな建物の周囲で発生することが多いが、市街地で発生することもあり、消防隊が近づけないために大規模な延焼火災になる。東日本大震災では、岩手県山田町の火災を初め多数の大規模な津波火災が発生し、筆者も調査に加わった。

津波で破壊された家屋や家財が津波に乗って陸域に運ばれ、津波が引く時に取り残された大量のデブリが何らかの火源によって燃え始めることよって起こる火災である。デブリがたまり易い山裾や大きな建物の周囲で発生することが多いが、市街地で発生することもあり、消防隊が近づけないために大規模な延焼火災になる。東日本大震災では、岩手県山田町の火災を初め多数の大規模な津波火災が発生し、筆者も調査に加わった。

津波で破壊された家屋や家財が津波に乗って陸域に運ばれ、津波が引く時に取り残された大量のデブリが何らかの火源によって燃え始めることよって起こる火災である。デブリがたまり易い山裾や大きな建物の周囲で発生することが多いが、市街地で発生することもあり、消防隊が近づけないために大規模な延焼火災になる。東日本大震災では、岩手県山田町の火災を初め多数の大規模な津波火災が発生し、筆者も調査に加わった。

津波で破壊された家屋や家財が津波に乗って陸域に運ばれ、津波が引く時に取り残された大量のデブリが何らかの火源によって燃え始めることよって起こる火災である。デブリがたまり易い山裾や大きな建物の周囲で発生することが多いが、市街地で発生することもあり、消防隊が近づけないために大規模な延焼火災になる。東日本大震災では、岩手県山田町の火災を初め多数の大規模な津波火災が発生し、筆者も調査に加わった。

津波で破壊された家屋や家財が津波に乗って陸域に運ばれ、津波が引く時に取り残された大量のデブリが何らかの火源によって燃え始めることよって起こる火災である。デブリがたまり易い山裾や大きな建物の周囲で発生することが多いが、市街地で発生することもあり、消防隊が近づけないために大規模な延焼火災になる。東日本大震災では、岩手県山田町の火災を初め多数の大規模な津波火災が発生し、筆者も調査に加わった。